



研鑽集会

テーマ
「目を凝らして高齢者・
外国出生者の結核と向き合う」

愛媛医療センターでは多職種連携や翻訳支援、地域との協働を通じて患者を支え、結核医療の維持に取り組んでいる。
今後は公的支援や病床の集約化など、社会全体で結核医療を支える仕組みづくりが求められる。



当協会理事 診療所長
愛媛医療センター名誉院長
阿部 聖裕

第29回
秋父宮妃記念
結核予防事業
功労賞(個人)
受賞

結核医療を守るために必要なこと

研鑽集会では、当協会から阿部診療所長がシンポジストとして登壇。

発表タイトル

「結核病床を有する医療機関では
どのように診療しているのか
—入院結核患者の現状と課題—」

独立行政法人国立病院機構愛媛医療センター
名誉院長としての立場から見える現状と課題、
今後の対応策について発表しました。

**日本の結核は減少傾向にあるものの、
高齢者と外国出生者の患者が増えている。**



当協会常務理事
岩田 猛



当協会CMでも
おなじみの
中山明音
アナウンサーにも
司会を務めて
いただきました。
(左)



当協会医局
上級アドバイザー
西村 一孝



当協会会長
久野 梧郎

大会式典・議事

結核患者別の問題

高齢者の場合

- ・診断の遅れ(認知症や基礎疾患のため)
- ・重症化しやすい(免疫低下等)
- ・治療の問題(副作用がやすい等)
- ・入院による生活機能低下
- ・退院・社会復帰が困難

外国出生者の場合

- ・診断・受診の遅れ(医療制度が分からない等)
- ・ことばの壁(症状や既往歴伝えられず、医師・看護師の説明の理解が難しい→治療中断のリスクに)
- ・治療継続の困難(6カ月以上の長期治療への理解不足、転居・帰国等)
- ・社会的・法的問題(在留資格・就労制限への不安、入院による収入減少・生活困窮等)
- ・感染拡大のリスク(寮・シェアハウスでの生活、受診の遅れ等)
- ・文化・価値観の違い(地域資源・保健所との連携不足、家族サポート得られない)

結核予防全国大会 ハイライト

当協会理事長
仙波 匡彬



全国支部長会議

当協会専務理事
栄 浩司



当協会常務理事
事業局長
土岐川 正

エネサブ法が変える早期発見 ～骨を消すことで見える世界～

**肺がんは、日本人のがん死亡数の第1位であり、
早期発見が生存率を大きく左右する。**

支部長会議では、当協会画像診断統括責任者 最上理事が登壇。

発表タイトル「肺がん検診における胸部X線検査の進化とその経験」

肺がん検診の課題として肋骨による「死角」が見落としの一因であったが、近年、この弱点を補う技術「エネルギー差分法(エネサブ法)」が登場し、胸部X線検査の診断精度は大きく進化している。エネサブ法は、骨陰影を除去することで「隠れた病変」を顕在化させ、診断能を飛躍的に向上させる。

エネサブ法の普及と精度の高い読影こそが、肺がんの早期発見、そして救命率の向上につながる。

eat愛媛朝日テレビYouTube「えひめメディカルチャンネル」
でもエネサブ特集が見られます！

Check!

エネサブ法については、
ひめけんプレスNo.2をご参照ください。

